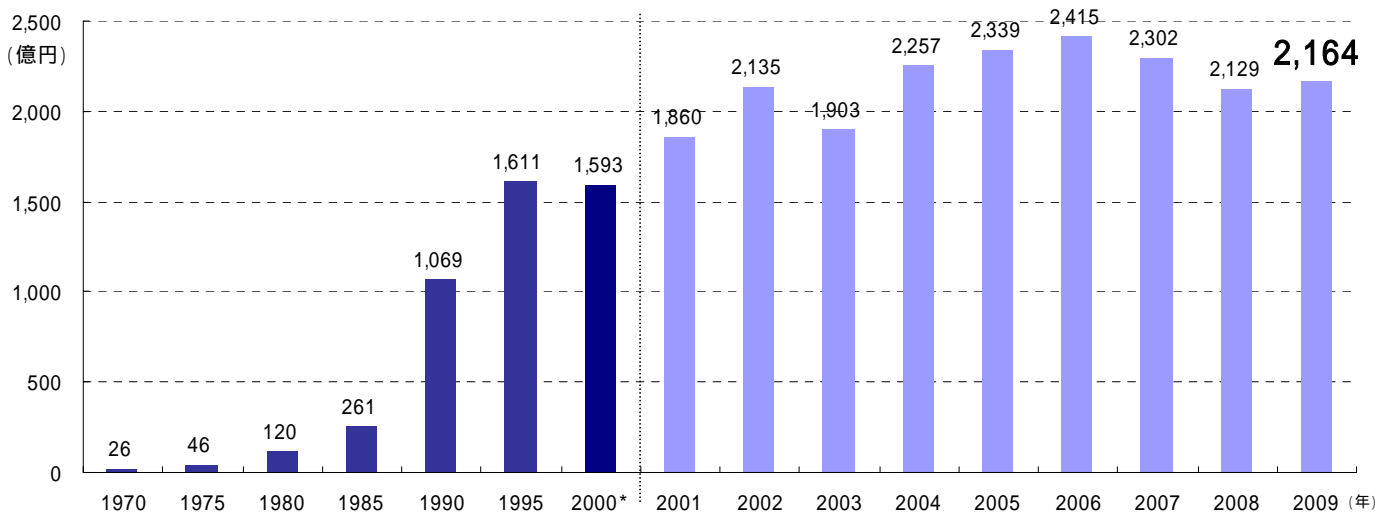


アニメ市場の減少傾向止まる

アニメーション市場規模の推移 < 1970-2009年 >



*2000年以前は5年毎 注 2004年より配信を含む

弊社が毎年実施している「アニメーション市場分析プロジェクト」の調査結果がまとまりましたので、その一部を発表いたします。

2009年(暦年)のアニメーション市場規模は2164億円で、2年連続減少していた市場がやや持ち直しました。

劇映画では、邦画は「ポケットモンスター」や「名探偵コナン」、「ドラえもん」などの子供向けの定番作品が順調に興行収入を伸ばしたほか、「エヴァンゲリオン新劇場版:破」や「サマーウォーズ」など幅広い年齢層を対象とした作品も健闘しました。2008年は市場が大きく落ち込んだ洋画では、「WALL・E/ウォーリー」が興行収入40億円を記録したのをはじめ、4作品が10億円を超える収入となり、前年を大きく上回りました。

テレビアニメの放送本数は前年よりも増加しましたが、テレビ番組へのスポンサーの投資が縮小していることなどが影響し、市場は厳しい状況が続いています。一方、衛星・CATVのアニメチャンネルの視聴者数は増加しており、有料放送の市場は引き続き拡大しています。2009年末のデータでは、アニメ専門チャンネルのアニメマックスの加入世帯数が約830万世帯に達し、全てのチャンネルの中でトップとなりました。

セルビデオは全体では前年比微減となっていますが、内訳ではブルーレイの売上が急伸しています。2009年の実績ではブルーレイ売上金額の半分以上を日本のアニメが占めており、今後の伸びが注目されます。レンタル市場は、消費の低迷や事業者間の競争に伴う客単価の減少を背景に伸び悩んでいます。

PC向け配信を中心に拡大してきたブロードバンド市場は踊り場を迎えています。今後はケーブルテレビ、IPTVのオンデマンドサービスの提供が本格化している中、アニメの需要が伸びるかが注目されます。携帯向けのアニメ配信は、市場は小さいながらも伸長しています。携帯向け配信ではコンテンツ利用料の課金システムが整っており、ユーザーが課金形態に慣れていることもあり、有料市場の拡大が期待されています。

< 市場の範囲 >

・劇場用アニメ、アニメビデオソフト(セル/レンタル)、テレビアニメ、配信(PC、IPTV、携帯電話端末向け)

注)算出に際してはユーザー支出レベルで統一しています。ただしユーザーが直接支出に関与していない地上波およびBS放送で放映されたアニメに関しては、制作費を市場規模として採用しています。

< 本リリースに関するお問い合わせ >

株式会社メディア開発総研 担当:戸口、柳川 TEL:03-5261-8927 FAX:03-5261-8928 e-mail:info@mdri.co.jp

引用、転載される場合は、クレジット(メディア開発総研発表)を入れていただくか、上記担当へ連絡をお願いします。